

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西 1Fユニット		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2298400041-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より6年を経過し、地域へだいが溶け込むことができています。近くにある湖西高校からは文化祭に毎年招待を受けるようになりました。地域のお祭りにも毎年協賛させて頂き、自治会よりは格別な計らいを頂いています。また、ホームの行事である夏祭りなどへは参加者が毎年増え、今年は百人を超えるまでになりました。ご近所の方からは無償で畑を提供頂き、今夏にはたくさんの収穫を楽しむ事が出来ました。ホーム内においても毎月一回は外食へ出かけることとし、その他行事などと合わせ外出の機会を多く持つことができています。そのような積み重ねにおいて市内の皆様からの信頼も頂いており、常に入居をお待ちいただいているとい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型事業所として強い自負をもち、地域ネットワークに尽力する事業所です。防災訓練への参画をはじめ、特に湖西高校との交流は校長先生の深い理解と協力の下盛り上がりを見せており、文化祭には利用者一人ひとりに生徒が付くビップ待遇で模擬店巡りが叶い、教職員2名も1日体験で事業所に訪れています。事業所の秋祭りには親子での来訪も賑わいを添え、本年は100人を超えて「地域に溶け込んでいる」との実感が湧く結果に結ばれています。事業所前の畑の収穫物を吟味しつつの散歩は日常に溶け込み、月1回は外食の日を設け、また1週間に1回はユニットごと全員で外出していて、皆壮健なことも自慢です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念の作成はされていませんが、地域との関係づくりというグループホームの存在意義は常に意識においた活動をおこなっております。会社全体の理念については全職員の共通認識となっております。	理念は会議で伝え、唱和もおこなっています。さらに、職員に実感として伝わる様、自治会主催の行事に参加するような場面では管理者から「これが理念にある、地域とのふれあいを大切にする～」と事例に即して言葉を添えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の鷲津まつりに協賛しお祭りに参加をしたり自治会主催の防災訓練に参加をしたり、地域の行事には積極的に参加しています。近隣の高校の文化祭には毎年呼んでいただき、生徒のボランティアや先生の職業体験も受けています。	元介護相談員夫妻が体操指南に毎月訪問くださり、中学生の職場体験では歌留多や将棋に興じています。湖西高校の文化祭は一人ひとりに付き添った生徒と共に、華道部、茶道部、吹奏楽部の活動披露を満喫し、鷲津祭りでは神輿や山車が立ち寄ってくださり賑わっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる演芸の会などへ利用者様が出かけていき、利用者様の生き活きた表情などを地域の方に見ていただくことにより、認知症に対するの偏見やホームでの生活が閉ざされたものではないことをご理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出先の情報を教えて頂き、行事を行ったり、畑についてのアドバイスをいただいたり、生活に直結する意見を頂き、日々のケアに活かしている。	運営推進会議は家族、地域、行政から万遍なく出席が叶い、隔月開催できています。自治会長からは認知症の症状がみられる近所に住む人の相談や、畑の手入れ方法への意見が届き、「たくさん写真があった方が～」と市役所からあがった助言は早速反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設以来、市の職員の運営推進会議への参加は欠かさずされています。平素の相談事などは電話やメールなどで済ませず、市役所へ出向き顔の見える形でさせて頂いております。	月2回は窓口に出向き、また市役所からも立ち寄ってもらえ、顔を合わせる機会は多々あり、「認知症カフェをやってみたらどうか」という提案は現在検討中です。またフロア入口に顔写真入りで掲示されている介護相談員は毎月訪れており、半年に1度書面でも報告が届いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全社を挙げて取り組んでおり施設内研修にて定期的に研修をおこなったり、強化週間を設け、朝礼にて唱和をおこなうなどの取り組みを行っている	法人主催の研修会へも参加し、「椅子の足をテーブル奥に入れすぎると動きにくい」といったことまで職員間で注視合っています。レビー小体型認知症の利用者が急に椅子から立ち上がった場面でも職員が一緒に歩き、声をかけて行動を抑制しないよう寄り添う様子を視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても全社を挙げての最重要項目として定期的な研修はもちろん、施設内の具体的な事案についても意見を交換する場を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に当ホームにおいて成年後見の制度を利用されている利用者様もあり、スタッフは意識を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社からのご案内に加え、管理者より各ご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置し、いつでもご意見を頂けるようにしている。また、運営推進会議にてご家族より意見を頂いている。	法人アンケートでは食事と入浴の項目では「よくわからない」との指摘があったため、毎月発行の「一二三(ひふみ)たより」に一言添えるよう改善しています。家族アンケートには「季節に応じた戸外の散策や外食をよくしてもらえ～」とあり、取組みが十分伝わっていることが確認できます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度のスタッフアンケートにより、匿名にての意見をスタッフは会社や管理者に発することが出来る。また、その意見に基づき、プランニングシートの作成を行っている。	法人主導のスタッフアンケートから成るプランニングシートが管理者シップを養い、また職員からも「炊飯ジャーを買ってほしい」といった具体的な意見のほか、「法人内の他事業所の取組みを知りたい」との向上心溢れる声が挙がり、合同研修会や事業所見学へと功奏した例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	表彰制度やスキルアップ、キャリアアップの制度により、頑張りにより処遇、待遇の向上が望めるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は毎月開催しており、基本的な内容から実際にホーム内での事例を話し合う事で、知識を現場に活かせるように取り組んでいます。施設外の研修への参加は出来ていないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状の人員の状況により、交流を持つ機会を持っていない現状です。近隣の施設と交流を持つべく話し合いは出来ておりますので、人員がそろい次第、計画的に進めて参ります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学の段階から、ご本人様のお困りの事柄から、入居後のご希望までを丁寧にお聞きしています。入居前にスタッフ間で話し合いを持ち、入居後のシュミレーションを行い、入居をお待ちしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、ご見学、入居の申し込みなどのお会いする場合はヒアリングはもちろんの事、入居をお待ちいただいている期間には定期的に連絡を取り、安心してご入居を迎えられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは入居型なので、居宅にては生活が困難な方のみご案内し、また、緊急性のある方には早急に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自身でして頂くことはもちろん、役割を持って頂き、共同生活の一端を担っていると思っただけのように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様同様に、ご家族様の意向は大切にしています。ご家族との良い関係が築けることで、ご理解やご協力が頂けておます。ホームの行事などへ参加されるご家族様も増えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅へお連れすることや昔の職場、行きつけの床屋、美容院、病院などへお連れしています。また、婦人会のお仲間や短歌の会のお知り合いなど外部から、ホームへ遊びに来られる方もいらっしゃいます。	短歌の仲間3~4名が昔を懐かしみながら此処で短歌の会を月2回おこなうのは恒例となっています。また「今日は仕事に行きたい」という人には以前の職場まで付き添ったり、華道師範には職員が定期的に花屋へと同行して、事業所の一面に華やぎを吹き込んでもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにての食事の席への配慮はもちろんのことお散歩へ出かけるメンバーやドライブ時の座る位置などにも気を配っています。また、ユニットを超えての交流も盛んにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先の病院や施設を定期的に回り、ご退去された方々の様子をお伺いしています。お顔を拝見すると皆様喜んでくださいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の言葉や会話の内容をアセスメントの表に各スタッフが書き込む事にて情報を共有し、そこからご本人様が望まれていることの把握に努めています。	好みのフレーズ、大切な人への想い、思い出の場所等、関わりを通じて個別に拾えた貴重な情報は「状況確認・発見シート」と名付けたアセスメントシートに随時記入しており、利用者への声掛けに大変役立っています。またケース記録に挟むことで職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族様に必ずセンター方式のご記入をお願いしています。また、ご自宅のご近所様やお店の方などに当時の生活の様子を伺ったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時よりその方のアセスメントをしばらく行い、その方の見えない根本の部分を探ります。その後はその内容を踏まえうえで、日々表情や発言などを注視し、対応にあたります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新しいサービスを開始したり、今までのサービスの変更を行う際には、必ずご本人様とご家族様からの了解を経てから、ユニットの会議にて今に一番則した方策を考えております。	利用者の担当職員が3ヶ月毎にモニタリングをおこない、計画作成担当者がそれをまとめてユニット会議に落とし込み、利用者本人と家族の意見聴取も併せて介護計画書を作成し、出来る限り全員が関わるように取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護計画に対するモニタリングを出勤スタッフにより行う事で、現状の把握と介護計画への反映を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の受診のみならず、ご家族の都合などを考慮した受診サービスをしています。介護保険などの手続きなどは全てホームで行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや洋服店などへ買い物に出かける際にはご本人をお連れし、お菓子選びや洋服選びをして頂いています。美容院や床屋へも希望にそってお連れしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族、ご本人様の意向をお聞きし、通院または受診、往診などを決めていきます。ご希望により訪問歯科の受診も可能です。	協力医のほかに訪問診療専任の医師が毎月訪れています。かかりつけ医を続ける人の受診は家族にお願いしていますが、難しいとなれば職員が代行し、いずれにしてもバイタルチェック表のコピーを携え、職員ならば口頭説明も加えています。歯科医の訪問も月2回あります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診・受診ノートに介護職、看護職が情報を共有することにて漏れの無い受診支援が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣病院の相談員とは常に情報交換を行っているため、入退院はスムーズで入居者様にかかる負担は最小限に抑えられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にももちろん丁寧に説明を差し上げていますが、レベルの低下に合わせ都度、その後の方針を具体的な期間を示し説明しています。	事業所での看取り実績はありませんが「看取りはやらない」としてはならず、研修も受けています。重度化については「浴槽をまたげなくなった」「食事が喉を通らなくなったら」と予め家族にも解り易く説明し、状態変化には早めに管理者が動き、家族と相談の機会をもっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応のマニュアル、事故発生時のマニュアルを各ユニットに備えています。年に一度は事故対応、救急時の研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練では、一回は夜間を想定し、スタッフが手薄な時の対応も考えています。地域との連携については運営推進会議での確認はもとより、消火栓を開ける自治会の訓練などに参加し、地域住民とも確認を行っています。	年2回の内1回は総合訓練としておこない、また地域の訓練では地元の皆さんが事業所に集まってくださり、避難経路を辿るなどできる範囲で双方とも利用者も全員参加しています。地域へは予備電源をはじめ十分な備蓄があることを伝え、有事の協力もお願いしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーのマニュアルを備えています が、年に一度は、プライバシー保護の研修を 行っています。入居当初のアセスメントやご 家族のお話からも、ご本人様を良く知ること に心がけています。	係る研修では個人名の保護に努めた書類管理 手法も学び、またプライバシーのマニュアルが冊 子として各フロアに配され、本件への意欲が覗え ます。失禁した下着を隠す行為については行動 観察から予測できることに配慮して「知られたく ない」という羞恥心に気遣っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	行きたい所ややりたいことを実現できるよう 個別の対応を心がけています。床屋の希望 や買い物などの希望などはもちろんのこと、 行事などの参加も強制はせず、ご本人の意 思に添っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を伺う事もありますが、入居者様は自身 にて自由に行動されます。困っておられたり、 何か希望がありそうな場合には声をお掛 けし、外にお連れしたりします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	白髪を気にされる入居者様にはスタッフが白 髪染めをしたり、シャンプーを個別にしたりし ています。男性でも床屋の希望があれば個 別に床屋へお連れします。ご本人様の嗜好 の把握にも努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	その方にあつたお手伝いをお願いしていま す。自席に座ってのお手伝い、キッチン内 でのお手伝い、エプロンを外にて干すお手伝い など場所や方法もその方に合わせていま す。	普段からカット、煮る、焼くと役割分担が利用者 のなかで自然にできていて、また「お好み焼き 〜」「餃子を〜」の声にはどちらか一方のユニット に集まり料理教室真柄の賑わいです。外食は海 鮮丼やラーメンと多岐に渡り、誕生日にはケーキ デコレーションを自らおこない、大満足です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事の形態は個々に合わせています。コー ヒーなどを提供する場合にも甘めからブラッ クまで好みに合わせています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	訪問歯科医の指導なども取り入れ、歯ブラシ の種類を個々でかえたり、うがい薬なども取 り入れて、各個人に合わせた口腔ケアを行っ ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢の方や車椅子の方でも布パンツにて生活されています。排泄の失敗につながる下剤の使用なども減らし、自然排便出来る様努めています。	一時的に下痢が続いてしまいパットを使用し始めても、状態が好転ぬ向かえば元の布パンツに戻すように図り、「出来る限り維持向上」を旨としています。1日1500CCの水分摂取を目標に、寒天を努めて食したり体を動かすことも敢行し便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量には気を遣い、おいしくたくさん摂取出来る様に心がけています。車椅子の方も歩行者を使い廊下歩行などを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のある入居者様には夕食後の入浴をしていただいております。ご本人に確認し気分の乗らない場合には変更を行います。	一人ひとりの入浴に湯の入れ替えだけでなく浴槽清掃も丁寧に併せておこない、また足拭きマットも個人用を使い、「人として欲しい事」に基づいた清潔度の高さがあります。また夕食後に入浴する人もいて、本人希望に副っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人様の自由な選択によります。起床もご本人様の意思に任せ、時間にて起きて頂くようなことはありません。日中の傾眠についても居室へご案内したりします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事録をスタッフがいつでも確認できる場所においています。服薬確認の表も活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中では出来ることは当然に行なっていただいています。その他趣味などについての支援は個々に希望を伺っています。短歌の会のメンバーが定期的に訪ねてくる入居者様もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自身が昔勤めていた職場や取引のあった場所におつれしたり、銀行やガソリンスタンドなどのご本人様の希望があればどこにでもお連れしています。	事業所前にある畑の収穫物を吟味しつつの散歩は日常に溶け込み、月1回は外食の日を設け、また1週間に1回はユニットごと全員で外出していて、皆壮健です。「家を見に行きたい」との利用者には職員が自宅まで付き添い、個別の外出支援も豊富にあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	危険が無い限り、ご本人様が安心出来る様に少しのお金は持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手方の了解を経たうえで、連絡は自由に行って頂いています。手紙を出す支援も行って頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に貼ってある写真や季節の飾りは毎月手作りにて貼りなおしています。折り紙や飾りは入居者様にお手伝いいただいています。	菊や百合、トルコキキョウといった生花が活けられ、折り紙の壁画、季節柄クリスマスグッズも彩を添え、外出レクリエーションの写真も連なり、穏やかで清浄な空気が流れています。利用者手書きの「今日の昼食メニュー」が常の優しい時間を物語るかのように在り、心なごみます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置、ソファの配置などを変え仲の良い方同士で座って頂いています。ソファにて思い思いに過ごされる方も多くいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前のご家族への説明の段階で、使い慣れたもの、またはご本人様の大切なものなどは持ってきていただけるようにお話しています。入居後もご本人様の状態に合わせて居室の配置などにきを使っています。	自身の洋服をつくったり、他利用者の衣類寸法を直す人の居室には一日中生活を共にするミシンが光っています。ハイビスカスをさり気なく飾ったり、お洒落な帽子がかかっていたりと、その人らしさが覗える居室が目立ちます。扉に大きな自身の写真を貼り分かり易くしている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事については、ご本人様に意思がある限りは上手に食べられないとしても出来るところまでご本人様にて食べて頂き、残りをお手伝いしています。排泄や入浴についても同様です。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西 2Fユニット		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2298400041-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より6年を経過し、地域へだいぶ溶け込むことができています。近くにある湖西高校からは文化祭に毎年招待を受けるようになりました。地域のお祭りにも毎年協賛させて頂き、自治会よりは格別な計らいを頂いています。また、ホームの行事である夏祭りなどへは参加者が毎年増え、今年は百人を超えるまでになりました。ご近所の方からは無償で畑を提供頂き、今夏にはたくさんの収穫を楽しむ事が出来ました。ホーム内においても毎月一回は外食へ出かけることとし、その他行事などと合わせ外出の機会を多く持つことができています。そのような積み重ねにおいて市内の皆様からの信頼も頂いており、常に入居をお待ちいただいているとい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型事業所として強い自負をもち、地域ネットワークに尽力する事業所です。防災訓練への参画をはじめ、特に湖西高校との交流は校長先生の深い理解と協力の下盛り上げをみせており、文化祭には利用者一人ひとりに生徒が付くビップ待遇で模擬店巡りが叶い、教職員2名も1日体験で事業所に訪れています。事業所の秋祭りには親子での来訪も賑わいを添え、本年は100人を超えて「地域に溶け込んでいる」との実感が湧く結果に結ばれています。事業所前の畑の収穫物を吟味しつつの散歩は日常に溶け込み、月1回は外食の日を設け、また1週間に1回はユニットごと全員で外出していて、皆壮健なことも自慢です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念の作成はされていませんが、地域との関係づくりというグループホームの存在意義は常に意識においた活動をおこなっております。会社全体の理念については全職員の共通認識となっております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の高津まつりに協賛しお祭りに参加をしたり自治会主催の防災訓練に参加をしたり、地域の行事には積極的に参加しています。近隣の高校の文化祭には毎年呼んでいただき、生徒の地域で行われる演芸の会などへ利用者様が出かけていき、利用者様の生き活きた表情などを地域の方に見ていただくことにより、認知症に対するの偏見やホームでの生活が閉ざされたものではないことをご理解いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる演芸の会などへ利用者様が出かけていき、利用者様の生き活きた表情などを地域の方に見ていただくことにより、認知症に対するの偏見やホームでの生活が閉ざされたものではないことをご理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出先の情報を教えて頂き、行事を行ったり、畑についてのアドバイスをいただいたり、生活に直結する意見を頂き、日々のケアに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設以来、市の職員の運営推進会議への参加は欠かさずされています。平素の相談事などは電話やメールなどで済ませず、市役所へ出向き顔の見える形でさせて頂いております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全社を挙げて取り組んでおり施設内研修にて定期的に研修をおこなったり、強化週間を設け、朝礼にて唱和をおこなうなどの取り組みを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても全社を挙げての最重要項目として定期的な研修はもちろん、施設内の具体的な事案についても意見を交換する場を設けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に当ホームにおいて成年後見の制度を利用されている利用者様もおり、スタッフは意識を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社からのご案内に加え、管理者より各ご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置し、いつでもご意見を頂けるようにしている。また、運営推進会議にてご家族より意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度のスタッフアンケートにより、匿名にての意見をスタッフは会社や管理者に発することが出来る。また、その意見に基づき、プランニングシートの作成を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	表彰制度やスキルアップ、キャリアアップの制度により、頑張りにより処遇、待遇の向上が望めるようになってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は毎月開催しており、基本的な内容から実際にホーム内での事例を話し合う事で、知識を現場に活かせるように取り組んでいます。施設外の研修への参加は出来ていないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状の人員の状況により、交流を持つ機会を持っていない現状です。近隣の施設と交流を持つべく話し合いは出来ておりますので、人員がそろい次第、計画的に進めて参ります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学の段階から、ご本人様のお困りの事柄から、入居後のご希望までを丁寧にお聞きしています。入居前にスタッフ間で話し合いを持ち、入居後のシュミレーションを行い、入居をお待ちしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、ご見学、入居の申し込みなどのお会いする場合のヒアリングはもちろんの事、入居をお待ちいただいている期間には定期的に連絡をとり、安心してご入居を迎えられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは入居型なので、居宅にては生活が困難な方のみご案内し、また、緊急性のある方には早急に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自身でして頂くことはもちろん、役割を持って頂き、共同生活の一端を担っていると思っただけのように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様同様に、ご家族様の意向は大切にしています。ご家族との良い関係が築けることで、ご理解やご協力が頂けておます。ホームの行事などへ参加されるご家族様も増えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅へお連れすることや昔の職場、行きつけの床屋、美容院、病院などへお連れしています。また、婦人会のお仲間や短歌の会のお知り合いなど外部から、ホームへ遊びに来られる方もいらっしゃいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにての食事の席への配慮はもちろんのことお散歩へ出かけるメンバーやドライブ時の座る位置などにも気を配っています。また、ユニットを超えての交流も盛んにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先の病院や施設を定期的に回り、ご退去された方々の様子をお伺いしています。お顔を拝見すると皆様喜んでくださいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の言葉や会話の内容をアセスメントの表に各スタッフが書き込む事にて情報を共有し、そこからご本人様が望まれていることの把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族様に必ずセンター方式のご記入をお願いしています。また、ご自宅のご近所様やお店の方などに当時の生活の様子を伺ったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時よりその方のアセスメントをしばらく行い、その方の見えない根本の部分を探ります。その後はその内容を踏まえたうえで、日々表情や発言などを注視し、対応にあたります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新しいサービスを開始したり、今までのサービスの変更を行う際には、必ずご本人様とご家族様からの了解を経てから、ユニットの会議にて今に一番則した方策を考えております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護計画に対するモニタリングを出勤スタッフにより行う事で、現状の把握と介護計画への反映を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の受診のみならず、ご家族の都合などを考慮した受診サービスをしています。介護保険などの手続きなどは全てホームで行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや洋服店などへ買い物に出かける際にはご本人をお連れし、お菓子選びや洋服選びをして頂いています。美容院や床屋へも希望にそってお連れしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係が築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族、ご本人様の意向をお聞きし、通院または受診、往診などを決めていきます。ご希望により訪問歯科の受診も可能です。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診・受診ノートに介護職、看護職が情報を共有することにて漏れの無い受診支援が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣病院の相談員とは常に情報交換を行っているため、入退院はスムーズで入居者様にかかる負担は最小限に抑えられている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にももちろん丁寧に説明を差し上げていますが、レベルの低下に合わせ都度、その後の方針を具体的期間を示し説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応のマニュアル、事故発生時のマニュアルを各ユニットに備えています。年に一度は事故対応、救急時の研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練では、一回は夜間を想定し、スタッフが手薄な時の対応も考えています。地域との連携については運営推進会議での確認はもとより、消火栓を開ける自治会の訓練などに参加し、地域住民とも確認を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーのマニュアルを備えています が、年に一度は、プライバシー保護の研修を 行っています。入居当初のアセスメントやご 家族のお話からも、ご本人様を良く知ること に心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	行きたい所ややりたいことを実現できるよう 個別の対応を心がけています。床屋の希望 や買い物などの希望などはもちろんのこと、 行事などの参加も強制はせず、ご本人の意 思に添っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を伺う事もありますが、入居者様は自身 にて自由に行動されます。困っておられたり、 何か希望がありそうな場合には声をお掛 けし、外にお連れしたりします。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	白髪を気にされる入居者様にはスタッフが白 髪染めをしたり、シャンプーを個別にしたりし ています。男性でも床屋の希望があれば個 別に床屋へお連れします。ご本人様の嗜好 の把握にも努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	その方にあつたお手伝いをお願いしていま す。自席に座ってのお手伝い、キッチン内 でのお手伝い、エプロンを外にて干すお手伝 いなど場所や方法もその方に合わせていま す。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事の形態は個々に合わせています。コー ヒーなどを提供する場合にも甘めからブラッ クまで好みに合わせています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	訪問歯科医の指導なども取り入れ、歯ブラシ の種類を個々でかえたり、うがい薬なども取 り入れて、各個人に合わせた口腔ケアを行っ ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢の方や車椅子の方でも布パンツにて生活されています。排泄の失敗につながる下剤の使用なども減らし、自然排便出来る様努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量には気を遣い、おいしくたくさん摂取出来る様に心がけています。車椅子の方も歩行器を使い廊下歩行などを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のある入居者様には夕食後の入浴をしていただいております。ご本人に確認し気分の乗らない場合には変更を行います。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人様の自由な選択によります。起床もご本人様の意思に任せ、時間にて起きて頂くようなことはありません。日中の傾眠についても居室へご案内したりします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事録をスタッフがいつでも確認できる場所においています。服薬確認の表も活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中では出来ることは当然に行なっていただいています。その他趣味などについての支援は個々に希望を伺っています。短歌の会のメンバーが定期的に訪ねてくる入居者様もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自身が昔勤めていた職場や取引のあった場所におつれしたり、銀行やガソリンスタンドなどのご本人様の希望があればどこにでもお連れしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	危険が無い限り、ご本人様が安心出来る様に少しのお金は持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手方の了解を経たうえで、連絡は自由に行って頂いています。手紙を出す支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に貼ってある写真や季節の飾りは毎月手作りにて貼りなおしています。折り紙や飾りは入居者様にお手伝いいただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置、ソファの配置などを変え仲の良い方同士で座って頂いています。ソファにて思い思いに過ごされる方も多くいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前のご家族への説明の段階で、使い慣れたもの、またはご本人様の大切なものなどは持ってきていただけるようにお話しています。入居後もご本人様の状態に合わせて居室の配置などにきを使っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事については、ご本人様に意思がある限りは上手に食べられないとしても出来るところまでご本人様にて食べて頂き、残りをお手伝いしています。排泄や入浴についても同様です。		